

エイズ・性感染症対策基本方針に基づく取り組み・今後の計画等

<委員名> 伊藤 俊広 委員・今村 淳治 委員

視点		基本施策	令和4年度及び令和5年度の取り組み予定(今後の計画含む)
視点1	正しい知識の普及	啓発活動・情報提供	<p><令和4年度 令和5年度も継続して実施予定></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ホームページ「東北AIDS/HIV情報ページ」http://www.tohoku-hiv.info/において基礎知識等情報提供している。 ○東北ブロック・エイズ拠点病院等連絡会議(年2回、うち1回は他県の状況を中心とした内容)で治療の最新情報と現状報告をしているほか、東北HIV/AIDS看護研修(年1回)、東北HIV/AIDS薬剤師・心理福祉連絡会議(年1回)、東北エイズHIV臨床カンファレンス(年1回)、仙台医療センターHIV/AIDS包括医療センター出張研修(年複数回)等の活動を通じ、ブロック拠点病院として行政・拠点病院医療者に向けた情報提供を継続している。
		学校における感染症教育	○仙台市立仙台工業高等学校にて当科薬剤師が保健講話を年1回継続している。
視点2	検査・相談の充実	検査体制の充実	<p><令和4年度 令和5年度も継続して実施></p> <ul style="list-style-type: none"> ○仙台市のイベント検査会(年2回程度)に医師を派遣。 →検査会でHIV陽性者があった場合は、保健師と連携し確実な病院受診に繋げている。 ○ホームページ「東北AIDS/HIV情報ページ」http://www.tohoku-hiv.info/でHIV検査情報提供。
		相談・カウンセリングの充実	○当院感染症内科を受診しHIV検査を行う患者に対しては、医師・看護師・カウンセラーが予防やHIV知識を含め説明している。
視点3	患者・感染者への支援	必要な医療・福祉サービスの支援	<p><令和4年度 令和5年度も継続して実施></p> <ul style="list-style-type: none"> ○仙台医療センターでは全科で対応。 →感染症内科看護師(HIVコーディネーターナース)が病棟や他科受診が円滑となるよう調整支援を行っている。 →感染症内科では患者中心のチーム医療を実践。外来日は月曜日・水曜日・木曜日・金曜日、継続通院患者数約190名。 →感染症内科外来専従のカウンセラー(心理療法士)がカウンセリングを実施。カウンセリング以外でも診療待合室等で気軽に会話ができる環境を整えている。 →診療時にはHIV担当薬剤師が同席、患者個々の治療内容や生活状況を把握した上で、服薬支援を行っている。 →地域連携室ケースワーカーと感染症内科看護師(HIVコーディネーターナース)との連携によるきめ細かい福祉サービス支援を実施。血友病HIV患者には、HIV専任ケースワーカーが個別に面会を行っている。 ○患者の高齢化等踏まえ、センター内に「HIV長期療養支援室」を組織、HIV患者の地域病院受診や福祉サービス・長期療養施設の利用が円滑になされるよう、支援室スタッフが地域に出向いての意見交換をはじめ、各施設・医療者との連携体制強化を図っている。 ○血友病薬害HIV患者に対して関節可動域等を調べるリハビリ検診会を年1回実施。また、外来リハビリを開設し、患者個々の状態に合わせて日々できる運動を理学療法士が提案している。 ○東北在住の血友病薬害HIV患者に対しては、個々に必要な各種検査を入院しまとめて行う「検査入院」を実施している。
		生活全般に亘る支援	○当科担当看護師(HIVコーディネーターナース)が患者各々の治療と生活状況を把握し、通院継続できるようコーディネートしている。

<委員名> 児玉 栄一 委員

視点		基本施策	令和4年度及び令和5年度の取り組み(今後の計画含む)
視点1	正しい知識の普及	啓発活動・情報提供	<令和4年度>
		学校における感染症教育	<令和5年度(予定)> 大学等での感染症に関する情報共有・新型コロナウイルス感染症の講義・講演等でも性感染症を取り上げて比較する。学校教員等からの日々困っている感染症対策における要望・質問にも答えられるような機会を作る計画を立てる。既存の教育プログラムを補完するような支援項目の調査なども有効かもしれません。なかなか教育の場で広がらないボトルネックの解消や性教育を行う場合に保護者への対応を留意したほうがいいかもしれません。
視点2	検査・相談の充実	検査体制の充実	<令和4年度>
		相談・カウンセリングの充実	<令和5年度(予定)> 必要に応じて現在の仙台市の無料検査体制などにも協力する。予算にもよりますが、他の性感染症に対する検査も増やせたらいいのかもしれない。
視点3	患者・感染者への支援	必要な医療・福祉サービスの支援	<令和4年度>
		生活全般に亘る支援	<令和5年度(予定)> 病院外来・入院等での診療を介して支援を行う。

<委員名> 谷津 裕子 委員

視点		基本施策	令和4年度及び令和5年度の取り組み(今後の計画含む)
視点1	正しい知識の普及	啓発活動・情報提供	○所属大学において学群・研究科を対象にした性感染症対策に関する授業や研究指導を行う。 ○大学・高等学校・専門学校等からの依頼を受け、健康教育に関する講義を行う。
		学校における感染症教育	
視点2	検査・相談の充実	検査体制の充実	○所属大学において性感染症や性的問題に相談窓口となり、希望学生に対して個別相談を行う。保健室と連携し、必要があれば適した医療機関の受診を勧める。
		相談・カウンセリングの充実	
視点3	患者・感染者への支援	必要な医療・福祉サービスの支援	○専門の診療科や医療機関への紹介を含めて支援する。
		生活全般に亘る支援	

<委員名> 高橋 剛 委員

視点		基本施策	令和4年度及び令和5年度の取り組み(今後の計画含む)
視点1	正しい知識の普及	啓発活動・情報提供	<令和4年度> 会員医療機関等への啓発ポスター・カードの設置・配布協力依頼
		学校における感染症教育	<令和5年度(予定)> ○HIV検査普及週間における啓発 ○「世界エイズデーせんだいキャンペーン」 ・医療機関等への啓発ポスター・カードの設置・配布協力依頼に基づいて会員へ協力を依頼する
視点2	検査・相談の充実	検査体制の充実	<令和4年度> ○希望者へ青葉区役所夜間検査の案内
		相談・カウンセリングの充実	<令和5年度(予定)> 会員医療機関での患者への自治体による無料検査案内、希望者に対する検査実施。
視点3	患者・感染者への支援	必要な医療・福祉サービスの支援	○HIV検査陽性者に対する受診勧奨、拠点病院への紹介などの対応を会員医療機関に対して周知する ○行政との支援連携
		生活全般に亘る支援	

<委員名> 齋藤 敏典 委員

視点		基本施策	令和4年度及び令和5年度の取り組み(今後の計画含む)
視点1	正しい知識の普及	啓発活動・情報提供	<令和4年度>新型コロナウイルス感染症のため特になし
		学校における感染症教育	<令和5年度(予定)>新型コロナウイルス感染症のため特になし
視点2	検査・相談の充実	検査体制の充実	<令和4年度>新型コロナウイルス感染症のため特になし
		相談・カウンセリングの充実	<令和5年度(予定)>新型コロナウイルスのため特になし
視点3	患者・感染者への支援	必要な医療・福祉サービスの支援	<令和4年度>新型コロナウイルス感染症のため特になし
		生活全般に亘る支援	<令和5年度(予定)>新型コロナ感染症のため特になし

<委員名> 守末 紀生 委員

視点		基本施策	令和4年度及び令和5年度の取り組み(今後の計画含む)
視点1	正しい知識の普及	啓発活動・情報提供	<令和4年度> ・仙台市よりエイズ・性感染症対策のポスターを掲示板へ貼る。 <令和5年度> ・ポスター等の掲示があるを行う。梅毒の感染が増えているので、予防の資料等があると良い。
		学校における感染症教育	

<委員名> 鈴木 仁美 委員

視点		基本施策	令和4年度及び令和5年度の取り組み(今後の計画含む)
視点1	正しい知識の普及	啓発活動・情報提供	<令和4年度> 小学校6年を対象に保健学習「感染症の予防」の単元においてエイズの学習を実施。養護教諭と学級担任のチームティーチングにより実施。 <令和5年度> ・今年度と同様に保健学習を実施予定。
		学校における感染症教育	

<委員名> 岡崎 奈保美 委員

視点		基本施策	令和4年度及び令和5年度の取り組み(今後の計画含む)
視点1	正しい知識の普及	啓発活動・情報提供	<平成27年度～令和4年度 継続して実施> ○思春期保健健康教育の実施(宮城県助産師会・若林区保健センターと連携) ○毎年11～12月に3年生対象に実施 ○助産師による講話 ・助産師の仕事 ・性とは ・思春期の体の変化・しくみ ・命の誕生・子育て ・思春期の脳と心 ・男女の気持ちのちがい・男女交際 ・性感染症 ・これからの生活について など <令和5年度(予定)> これまでと同様に実施予定
		学校における感染症教育	

<委員名> 後藤 佳子 委員

視点		基本施策	令和4年度及び令和5年度の取り組み(今後の計画含む)
視点1	正しい知識の普及	啓発活動・情報提供	<令和4年度><令和5年度(予定)> ○保健体育・家庭科領域での授業 ○学年毎LHRでの保健講話(外部講師による) ・1学年デートDVについて・2学年性感染症について・3学年薬物防止 ○保健便り等による情報提供
		学校における感染症教育	
視点2	検査・相談の充実	検査体制の充実	<令和4年度><令和5年度(予定)> ○性感染症も含め相談にたどりつけた生徒には個別の対応を考えている
		相談・カウンセリングの充実	

視点		基本施策	令和4年度及び令和5年度の取り組み(今後の計画含む)
視点1	正しい知識の普及	啓発活動・情報提供	<令和4年度> ■WEBサイト「仙台HIVネット」での情報提供(感染症対策室との協働) ■community center ZELフリーペーパーでの情報提供 ■Living Together in SENDAI(HIV陽性者や周りの人が書いた手記の朗読会)実施 ■HIV陽性者スピーカーによる研修会「HIV陽性者と語ろう」実施 ■日本エイズ学会参加報告会実施 ■PrEP勉強会実施 ■世界エイズデー展示(仙台市市民活動サポートセンター入口) ■SENDAI SDGs WEEKにてブース出展協力
		学校における感染症教育	<令和5年度(予定)> ■WEBサイト「仙台HIVネット」での情報提供(感染症対策室との協働) ■community center ZELフリーペーパーでの情報提供 ■Living Together in SENDAI(HIV陽性者や周りの人が書いた手記の朗読会)実施 ■HIV/AIDS・性感染症勉強会「What's "UP"？」実施 (HIV陽性者スピーカーによる研修会/日本エイズ学会参加報告会/PrEP勉強会など) ■世界エイズデー展示(仙台市市民活動サポートセンター入口)
視点2	検査・相談の充実	検査体制の充実	<令和4年度> ■HIV検査担当者研修会 ■MSM向け検査広報(アプリケーション広告など。感染症対策室との協働) ■郵送検査キット無料配布(MSM限定) ■community center ZELでの相談対応
		相談・カウンセリングの充実	<令和5年度(予定)> ■HIV検査担当者研修会 ■MSM向け検査広報(アプリケーション広告など。感染症対策室との協働) ■郵送検査キット無料配布(MSM限定) ■MSM向けクリニック検査の検討 ■community center ZELでの相談対応
視点3	患者・感染者への支援	必要な医療・福祉サービスの支援	<令和4年度> ■community center ZELでの相談対応 ■陽性者交流会in仙台の広報協力
		生活全般に亘る支援	<令和5年度(予定)> ■community center ZELでの相談対応 ■陽性者交流会in仙台の広報協力

視点		基本施策	令和4年度及び令和5年度の取り組み(今後の計画含む)
視点1	正しい知識の普及	啓発活動・情報提供	<p><令和4年度></p> <ul style="list-style-type: none"> ○HIV感染症の正しい理解、HIV陽性者の偏見差別解消に向けた情報発信 ・電話相談による情報提供 (毎週:日・木12:00~19:00 TEL090-7993-9447) <p>当団体の相談員はHIV陽性者である。相談に対してHIV陽性者視点から過去の体験、現在の生活を中心に情報発信した。一般には聞けないHIV陽性者の現在の思いを伝えることを重視し、HIV陽性者の正しい理解、相談者の周辺から伝わる理解を進めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種研修会、学生講義等への講師派遣 令和4年度は、関東甲信越HIV感染症看護研修、新潟大学医学部、横浜市立大学看護学、名古屋市立大学看護学(2講義)に派遣した。 ・第48回日本保健医療社会学会(松山)シンポジウム「ウィズコロナをどう生きるか」(感染症とスティグマ)血友病薬害被害者の抱える諸問題)、第36回日本エイズ学会(浜松)演題「HIV感染被害者のかかえる「生きづらさ」に折り合いをつける—当事者の語りから—」を発表報告。
		学校における感染症教育	<p><令和5年度></p> <ul style="list-style-type: none"> ○HIV陽性者による各種研修、講義等への講師派遣 ・ご要望があれば講師派遣可能。医療機関、行政福祉施設、学校、イベント等(詳細応相談) ○電話相談継続 ○その他、国際社会学会(メルボルン)発表予定(令和5年6月)。第37回日本エイズ学会(京都)
視点2	検査・相談の充実	検査体制の充実	<p><令和4年度></p> <ul style="list-style-type: none"> ○電話相談により感染不安者に対する不安相談と受検勧奨。(週2回:同上) ・感染不安を傾聴し、検査の目的・意義の周知を重視し受検行動を勧奨。HIV検査を受け陰性結果を知ることが一番の不安解消となる。また仮にHIV陽性者であっても早期発見は、エイズ発症や健康悪化を防ぎ、人に感染させるリスクを減らす。結果としてパートナーや家族・周囲との良好な関係の維持、自分のライフスタイルの継続につながり、健康的に暮らしていることをHIV陽性者の口から直接伝えることで不安軽減や安心感を得た。さらにHIV感染症が差別や偏見を受けるいわれのない病気であることや一個人として生きている社会であることも啓発した。これはCOVID19においてHIVと同様に繰り返された患者差別、医療者や行政担当者や家族等にも及んだ各種職業、地域差別等を無駄にせず、社会の分断ではなく、人が健康に生きるためにどうするかを考える機会にも関わると思われ、多くの市民の理解を得ることが重要な課題と考える。 ・アウトリーチ活動 広島市職員とゲイバー等広島市周辺飲食店への啓発資料を配布した。
		相談・カウンセリングの充実	<p><令和5年度></p> <ul style="list-style-type: none"> ○電話相談継続 ○HIV感染症の感染不安相談、梅毒等他の性感染症の受検勧奨と啓発 ○検査実施担当者や医療機関等との協働、働きかけ、意見交換を連携強化を検討
視点3	患者・感染者への支援	必要な医療・福祉サービスの支援	<p><令和4年度></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ピア電話相談(週2回:同上)は、相談員のHIV陽性者として得た経験から情報共有や意見交換を行った。現在までHIV感染症は根治できない。しかし相談員がエイズ未発症のまま30年以上の生きてきた経験や、困難と共に様々な人と出会い、経験したことが自らの気づきや学び、さらに支援される側と支援する側の双方を経験している体験は、感染間もないHIV陽性者や感染を否定的に考えがちな相談者に対して、今後も人生を全うできるヒントとして考えてもらうことができた。相談者から「少し気持ちが楽になりました」など、安心感を得た様子は当事者支援にいかされた。
		生活全般に亘る支援	<p><令和5年度></p> <ul style="list-style-type: none"> ○電話相談の継続 HIV陽性者自らを否定することなく、健康に生きられるよう、相談者が求める支援を行う。また、当事者同士が遠慮無くHIVについて思いを話せる、安心できる空間を確保する。また、必要に応じて相談者が求める患者の声を反映できるように医療機関や行政機関等との意見交換や働きかけを実施する。医療者や行政担当者が目の前のHIV陽性者や相談者に対して、特別視せず、生活者として、同じ社会の中で生きている存在であることも、改めて理解を得られるような啓発、情報発信を継続する。